

4 消化器内科研修プログラムの概要

1. プログラムの目的と特徴

目的

- ・ 救急疾患を含む急性期医療からターミナルケアまで、総合的な消化器診療能力の修得を目的とする。

特徴

- ・ 消化器関連の検査および治療技術がひとつとおり実践できるようになるために、各部門のエキスパートが指導にあたる。
- ・ 入院患者の症例検討のほか、外科・病理科の医師をまじえた検討会により内視鏡や各種画像の診断能力を高めることができる。

2. 研修内容と到達目標

研修内容

- ・ 三年間を通して、一般的な消化器疾患、救急疾患の外来および入院患者の診療、終末期患者の入院診療を行い、各種検討会（院内・院外）に参加する。

到達目標

1年目

- ・ 超音波検査、内視鏡検査（上部消化管、下部消化管、E R C P）、血管造影検査、エコー下穿刺（P T C D、肝生検）などの消化器関連手技を指導者の指導の下で実施できる。
- ・ 超音波検査、上部消化管内視鏡検査は独力で実施できる。

2年目

- ・ 内視鏡手術（食道静脈瘤結紮療法、上部・下部消化管のポリペクトミーと粘膜切除術を含む）、血管造影検査（interventional radiologyを含む）、エコー下穿刺（P T C D、肝生検、P E I T、R F A）などを指導者の監視の下で実施できる。
- ・ 消化管止血術などの緊急治療手技が独力で実施できる。

3年目

- ・ 上部消化管の粘膜下切除術、内視鏡的乳頭切開術、interventional radiology、エコー下穿刺治療が自ら実施できる。